

北海道の基地・自衛隊問題の現状（09年度版）

北海道平和委員会 石田明義

1 はじめに

日米新安保 50 年

米国の本質（覇権国家・戦争国家）と自衛隊の性格（従属と一体）
日本を守るものではなく、米国を支えるため

日米の新政権とも

新自由主義の経済破綻、軍事優先の見直しなど
国民世論の意思を無視できない

揺らぎ これまでの方針の変更の可能性

アフガン増派、ミサイル防衛、核廃絶、沖縄新基地問題

2、新防衛大綱の見直し—新政権の先送り

09年12月 予定、1年先延期した。

民主党の方向（国際平和活動・海外派兵を重視、日本周辺の脅威は後退）

★04年新防衛大綱～これまで

日本への侵略の可能性はほとんどない（日本防衛の必要の低下）

新しい脅威（テロ、ゲリラ、生物化学、大災害など）

国際の安全保障環境（国益の確保や国際協調活動の拡大）

国際平和活動（海外派兵）の重視

↓

道内陸上自衛隊の定員削減、基地整理縮小など

財務省の基地削減の要求（旭川・千歳・帯広・真駒内・札幌以外は不要？）

北方の脅威対応から西方での（島嶼）防衛訓練

新しい脅威（テロなど）などへの対処訓練

（存在する自衛隊から機能する自衛隊へ）

3、新防衛大綱にむけて危機意識の自治体の動き

千歳市長の防衛懇話会での報告・意見表明

道内・自衛隊基地のある市町村での自衛隊存続決議、削減反対決議

4、道内 自衛隊の改編の方向

◆陸上自衛隊と米陸軍、海兵隊◆

- 1、「日本への侵略」から「日本防衛」では、自衛隊の必要性を維持できない
→定員削減、基地縮小は流れ。
- 2、新たな脅威・テロなど→多目的多様な活動、「戦争以外の軍事活動」拡大

協同転地演習

(南方転地 移動、途中の自衛隊基地での各対処、富士での都市型訓練など)

(北方転地 本州から浜大樹など→矢臼別演習場へ)

インフルエンザへの対処訓練 (第11旅団600名) 生物化学兵器対処訓練

警察との治安出動訓練 (最高型は08年7月 洞爺湖サミット対処)

道警察実働訓練 3月5旅団、4月 7師団で実施

- 3、国際的な活動 国連への協調活動、多国籍軍

普通の軍隊化 参加する以上は普通の軍隊の欲求・必要度が高まる

(海外派兵専門的部隊を整備—中央即応集団—配下に、各地がローテーションで待機部隊 特に北海道の部隊が)

東千歳の都市型訓練施設をつかった訓練

道内各地の駐屯地の簡易型の使用のほか 自衛隊が訓練で使用する。
米軍との共同訓練につかう予定 (統合軍化)

4、総合近代化旅団

陸上自衛隊の**生き残り戦略**／多目的に対応できる部隊へ柔軟化／

戦争以外の軍事作戦へ訓練

災害救援、治安維持、医療支援、インフルエンザ対策、人道復興支援

テロ対策、重要施設警備、国際平和活動、海賊対処など多彩なメニュー

参照（08年報告部分に加筆）

①2007年3月28日 中央即応集団が発足

約3,200人の海外派兵を本来任務化（2008年3月28日 全部隊揃う）。

米陸軍司令部と座間に同居する予定（海外派兵専門実戦に向けた体制）

海外での3軍統合軍（ソマリア、ジブジ）と米軍、多国籍軍と連携

中央即応集団の続く本隊に北部方面隊が07年から2年間指定されている

北海道の第2師団、第7師団を中心に先隊に続き、派兵される部隊 1,260

人で編成され訓練・待機中

道内部隊 国連平和活動など海外派兵の経験が多い（重視されている）

両師団とも「サイバー部隊」高度にコンピューター化され、米軍との相互

運用。C4I2と呼ばれ「師団等指揮システム」(Fics)「基幹連帯指揮統制

システム」(Recs)が「IT実験師団」(第2師団)。全国ではじめて導入

②、第5旅団、第11師団が旅団化（2008年3月26日）

約7,200人から約3,600人に旅団は総合的な戦闘力を持つ師団を小規模にした編成。

軽装甲機動車の配備などでより「機動力が高まり、より機能的になる」(師団)という。米軍ストライカー旅団（高速輸送船、大型輸送機を持つ世界のどこでも48時間で展開できる部隊）

これに対応できる日本型旅団作りを総合近代化旅団（北海道）これも全国ではじめての計画（青函以南・首都圏へ治安派兵と海外派兵）

③第7師団の70式戦車→新戦車への交代予定

市街化テロ、ゲリラ戦で利用（千歳の都市型訓練施設の訓練写真 戦車使用）軽量化、空輸輸送化し海外派兵対応する

④自衛隊の演習場—多い演習場は「防衛資産」（千歳市長・自民党）

大・中・小演習場9箇所が在日米軍提供基地施設（地位協定2-4-B）で、矢臼別・北海道・上富良野・鹿追然別・旭川近文台・名寄・滝川・倶知安高嶺・遠軽の各演習場。

各種の演習が行われ特に相互運用が主流となる、

特に矢自別の演習が激しくなることが予想される。

米軍の演習での活用（海兵隊移転訓練が事実上固定化と拡大）

⑤弾薬庫の拡張—相互運用の危険性

安平、白老の弾薬庫の拡張（白老は日本一の弾薬貯蔵量）

◆航空自衛隊と米軍◆

米空軍との共同訓練、

海外派兵にむけた海外へ長距離・長時間の飛行訓練

沖縄の痛み軽減を口実に米軍戦闘機の移転訓練と共同訓練が3回目を実施された（09年4月）

海外での戦闘強力と輸送力向上（空中給油機）とミサイル防衛体制へ組み込み
空中給油機使用による訓練、長距離、長時間の輸送・移動・空中待機が可能

①戦闘機部隊の強化（嘉手納・米軍機移転訓練 3回実施）

千歳基地に：沖縄嘉手納 米空軍F15の分散移転訓練の継続

訓練地域は北海道西方空域、三沢東方空域で実施。

訓練内容は、情報共有化、戦闘機戦闘訓練など

共同訓練に参加の米戦闘機

07年は岩国A18、08年嘉手納F-15、09年岩国A18

②空中給油機（輸送機KC-767）を使用した長距離（長時間）訓練の実施
（09年10月）

米国・カナダ・アラスカへ訓練参加の移動中に米軍から給油を受ける訓練

沖縄の西海上（島嶼部作戦）を想定した空中給油訓練を実施。

名古屋（小牧）へ配備した空中給油機を使用して訓練（当面4機→将来8機）

09年10月、千歳と那覇で給油訓練を初めて実施（今後の米軍への給油も）

千歳基地に駐機場、誘導路を10年度整備。2012年供用。将来は千歳配備も

③レーダーサイトの改良（弾道ミサイル探知能力の強化）

奥尻・襟裳・当別の3箇所がFPS3レーダー（ミサイル防衛）**当面、当別へ**
1基200億の設置（潜水艦対策 ロシア、中国）
日本への中国や北朝鮮からの弾道ミサイルを監視するレーダー
日米のイージス艦、哨戒機などのレーダーなどとリンクしている

④ミサイル防衛体制の進展（北朝鮮脅威を強調して前倒し配備）

千歳基地に、パトリオットIII 10年に配備予定

（長沼、八雲のパトリオットIIも 将来配備される可能性）
現在はパトリオットII型（航空機用）→パトリオットIII型（ミサイル用）

当別の航空自衛隊 ミサイル防衛用 **新型レーダーFPS3型改良（工事中）**

◆海上自衛隊と米海軍◆

1、北海道には一青森・大湊の海上自衛隊所属の海上自衛隊は函館（掃海部隊）
と余市の高速艇部隊がある。

08年9月に余市の新型高速ミサイル艇 2隻（わかたか・くまたか）配備（古
いのと交代） 不審船対策のため強化（秋田-稚内）佐世保、舞鶴から）

2、海上自衛隊は創立以降、米海軍との共同演習が頻繁に実施している。
米艦船の北海道へ寄港前後の共同演習など参加している（米海軍の従属、
一体化）

3、この1年間 米艦船入港は小樽、函館港

①これまで小樽・石狩湾新港・函館・室蘭・苫小牧・釧路、稚内への米艦
入港と増加

1997年日米防衛協力の「新ガイドライン」で日本周辺有事の際の米軍が
民間港湾を利用合意。米軍再編合意では港湾・空港の活用を確認

北朝鮮ミサイル問題を契機に松前沖 150海里海域に米イージス艦だまり
がある（北朝鮮から発射→ハワイ、ロサンゼルスへのミサイル飛翔コース）
米空母やイージス艦の道内港への入港が急増している理由

訓練海域での共同行動（米軍イージス艦、海上自衛隊イージス艦）

②米空母の小樽港、室蘭港への寄港問題の今後

米軍のアジア太平洋地域への「空母二隻体制」の実施

アジアと「不安定の弧」に対する二正面体制の対応

補給・休養・メンテナンス（準母港化）→南では佐世保港の準母港化

横須賀への原子力空母の配備（08年8月） 寄港の可能性の拡大

（室蘭，小樽の地位協定の密約の存在。港湾の原子力事故対策は皆無）

③核搭載米艦船の宗谷海峡、津軽海峡など通過容認の密約発覚

米国の核艦船の通過の容認 米戦略へ配慮

日米核密約を廃止して、海峡を通過させない

◆軍需技術研究◆調査中

1、レーザー開発研究 千歳科学技術大学

大企業系の研究者が多いこと、

2、大樹航空公園

防衛省施設 無人飛行機開発研究